

記入例 児童相談所からあっせんを受けた里子を特別養子とする場合

申立書を提出する裁判所（養親となる者の住所地の家庭裁判所）

作成年月日

収入印紙 円 予納郵便切手 円		受付印 特 別 養 子 縁 組 申 立 書	
		(この欄に収入印紙800円分をはる。) 印 紙 (はった印紙に押印しないでください。)	
準口頭		関連事件番号	平成 年(家)第 号
○ ○ 家庭裁判所 御 中 平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日		申 立 人 [養親となる者] の署名押印 又は記名押印	甲 山 一 郎 (印) 甲 山 花 子 (印)
添付書類	(同じ書類は1通で足りません。審理のために必要な場合は、追加書類の提出をお願いすることがあります。) <input type="checkbox"/> 養親となる者の戸籍謄本 (全部事項証明書) <input type="checkbox"/> 養子となる者の戸籍謄本 (全部事項証明書) <input type="checkbox"/> 養子となる者の実父母の戸籍謄本 (全部事項証明書) <input type="checkbox"/>		
申立人 (養親となる者) ら	本籍	都 道 府 県 ○ ○ 市 ○ ○ 町 ○ 番 地	
	住所	〒 ○ ○ ○ - ○ ○ ○ ○ 電話 ○ ○ (○ ○ ○ ○) ○ ○ ○ ○ ○ ○ 県 ○ ○ 市 ○ ○ 町 ○ 丁 目 ○ 番 号 ○ ○ ア ー ト ○ 号 (方)	
	フリガナ氏名 (養父となる者)	マヤマ イチロウ 甲 山 一 郎	昭和 平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日生
フリガナ氏名 (養母となる者)	マヤマ ハナコ 甲 山 花 子	昭和 平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日生	
事件本人 (養子となる者)	本籍	都 道 府 県 ○ ○ 市 ○ ○ 町 ○ 番 地	
	住所	〒 ○ ○ ○ - ○ ○ ○ ○ 電話 ○ ○ (○ ○ ○ ○) ○ ○ ○ ○ ○ ○ 県 ○ ○ 市 ○ ○ 町 ○ 丁 目 ○ 番 号 ○ ○ ア ー ト ○ 号 (方)	
	フリガナ氏名	オツカ ハルコ 乙 川 春 子	平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日生
事件本人 (養子となる者の父)	本籍	都 道 府 県 ○ ○ 市 ○ ○ 町 ○ 番 地	
	住所	〒 ○ ○ ○ - ○ ○ ○ ○ 電話 ○ ○ (○ ○ ○ ○) ○ ○ ○ ○ 不詳(最後の住所) ○ ○ 県 ○ ○ 市 ○ ○ 町 ○ 丁 目 ○ 番 号 (方)	
	フリガナ氏名	マヤマ タロウ 丙 山 太 郎	昭和 平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日生

平日の日中に連絡のつく番号を記入してください(携帯電話でも構いません)。

裁判所から連絡がとれるように正確に記入してください。

(注) 太枠の中だけ記入してください。

事件本人 (養子となる者の母)	本籍	都道府県 〇〇市〇〇町〇番地	
	住所	〒 〇〇〇 - 〇〇〇〇 電話 〇〇 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号 (〇〇〇〇 方)	
	フリガナ氏名	オツカワ アキエ 乙川 秋江	昭和 平成 〇年〇月〇日生
※1	住所	〒 - 電話 () () 方)	
	フリガナ氏名	昭和 平成 年 月 日生	
※1	住所	〒 - 電話 () () 方)	
	フリガナ氏名	昭和 平成 年 月 日生	

申立ての趣旨	
事件本人(養子となる者)を申立人らの特別養子とするとの審判を求める。	

申立ての実情					
※2 (1) 縁組の動機・事情等	1. 申立人兩名は平成〇年に結婚し、子どもが欲しいと願っていたが、実子に恵まれず、検査の結果でもその見込はうまいとのことでした。				
	2. 平成〇年〇月〇〇児童相談所に里親登録をしました。				
	3. 事件本人春子の出生当時、その両親は既に離婚しており、実母は若年で定職もなく、生活力が乏しく、実父も行方不明となり、事件本人は乳児院に収容されました。				
	4. 申立人兩名は事件本人を里子としていますが、同人は健康であり成長発育に何ら問題はなく、申立人らになつき、家族の一員として十分親和しています。				
(2) 申立人らの生活状況等	養父となる者		養母となる者		
	職業(勤務先)	〇〇株式会社		主婦	
	収入等	月収(平均) 30 万円くらい 主な資産等 預金200万円、有価証券		月収(平均) 0 万円くらい 主な資産等 預金100万円	
	子の有無	① 無 2 有(男 人, 女 人)		① 無 2 有(男 人, 女 人)	
	婚姻の日	昭和 平成 〇年〇月〇日			
	住宅事情	1 自宅 ② 社宅等 3 アパート 4 借家 5 その他 ()			
申立人、養子となる者以外の同居家族等	甲山 秋子(申立人一郎の母, 65歳)				

この申立てをするに至ったいきさつや、事情を分かりやすく記入してください。

(注) 太枠の中だけ記入してください。

特養 (2/3)

すでに養子縁組をしている養子がいる場合は、その養子も含めた人数を記入してください。

※3 (3)	縁組を受けた機関等	住所 (所在地)	〒 〇〇〇 - 〇〇〇〇 電話 〇〇 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号
		氏名 又は 名称	〇〇 児童相談所
※4 (4)	申立人らによる養子	監護の有無 (申立時)	① 有 監護開始年月日 平成 〇 年 〇 月 〇 日 (監護開始時の子の年齢 2 歳 10 月) 2 無
		監護の経緯	(1) 記載のとおり
		監護状況等	事件本人春子の健康状態は、たまに風邪をひくことはあるものの、おおむね良好である。申立人らは事件本人を実子同様に扱い可愛いがると同時に年齢に応じたしつけもするよう心掛けている。事件本人の心身の発達状況は順調であり、良好な家族関係が形成されている。
※5 (5)	縁組同意の有無等	父	(同意を得られない事情) 1 有 現在所在不明となっておりその意向をたずねることはできません。 2 無
		母	(同意を得られない事情) 1 有 2 無

(注) 太枠の中だけ記入してください。

記 入 要 領

- ※1 養子となる者に実父母のほか養父母がある場合には、それぞれについて、養子となる者に未成年後見人、父母以外で親権を行う者(父母が未成年者であるときのその父母又は未成年後見人、審判前の保全処分によって選任された親権者又は未成年後見人の職務代行者、児童福祉法第47条第1項の児童福祉施設の長等)又は監護者がある場合には、これらの者について、()内に養子となる者との関係を特定した上、所要事項を記入してください。
- ※2 申立ての動機、経緯のほかに、ア 養子となる者の出生の経緯、生活歴及び心身の状況(出生時の状況、申立人と同居するまでの家庭環境、監護状況等、申立人と同居するまでの病歴、健康状態、心身の発達状況等)、イ 父母の家庭状況及び経済状況(家族構成、家庭の人間関係、生活態度、資産、収入等)、ウ 未成年後見人、父母以外で親権を行う者、監護者の縁組についての意向等について記入してください。
- ※3 児童相談所又は養子縁組をあっせんする事業を行う者からあっせんを受けた場合に記入してください。なお、審判の結果は、当該機関等にも通知されます。
- ※4 「監護の有無」について、「2 無」に○を付けた場合には、監護開始予定年月日を記入してください。「監護状況等」については、養子となる者に対する保健衛生上の配慮、教育的関心及び配慮等、養子となる者との感情的交流及び親密さの程度、事件本人の心身の発達の経過、同居後の家庭の人間関係と雰囲気、今後の監護教育についての意向等を記入してください。
- ※5 「同意を得られない事情」中には、民法第817条の6ただし書に規定する場合に該当することを示す事情も記入してください。